

## 令和6年度 立山地区町政懇談会①

開催日時 令和6年11月29日（金）午後7時～午後8時10分

開催場所 岩嶽公民館

出席者 立山町 舟橋町長、杉田副町長、杉田教育長、西田消防長、  
佐伯土木統括監、清水総務課長、野田建設課長、作田教育課長、  
水上健康福祉課長

地元議員 後藤議員、平井議員

立山地区区長会 安川会長

企画政策課 瀬本課長、松岡係長、富崎主事、石黒主事

参加者数 35名（うち町職員7名）

### 1 挨拶

町長 挨拶

### 2 地区代表者挨拶

安川会長 挨拶

### 3 懇談会

#### （1）町からのお知らせ

- ①岩嶽寺地内の町有地（国少・職員宿舍跡地）の売却について（案）（総務課）
- ②立山町における災害時の対応について（総務課）

#### （2）意見交換

##### ■立山地区①協議事項の回答

##### ●立山小学校関連

###### ①特認校制度の導入について

- ・地域、保護者、学校、町当局の今後の取り組み方、役割分担について
- ・町の予算措置及び地域、保護者の負担について

（教育課長）

小規模特認校の特色ある活動の運営にあたっては、地域や保護者が中心となって継続的に取り組んでいただき、町教育委員会は地域・保護者と学校間の調整役として支援等

を行いたいと考えている。例えば、小規模特認校制度の周知や利用希望者の申請手続き等は、町教育委員会が中心となり対応し、小規模特認校制度の利用実績、特色ある取り組みの実施、学校と地域の連携状況などについて、情報共有する場を設けたい。

小規模特認校制度を導入することに伴う特別な予算措置については、他の学校とのバランスや公平性の観点から難しく、原則、地域や保護者負担をお願いすることになる。

しかし、立山小学校では、小規模特認校の特色として英語学習を掲げているので、英語担当教員や外国語指導助手と連携した授業支援に加え、英語教育等の支援ができる方を地域おこし協力隊として現在募集しており、英語力向上のための学習機会の創出や支援ができればと考えている。

なお、小規模特認校制度の導入は、町教育委員会としても新たな取組みにもなるので、今後具体的な内容を共有いただき、ご相談いただきたい。

## ②立山かがやき教室について

・地域保護者の意向に対する対応、活動時間や対象学年など

(教育課長)

立山小学校の「立山かがやき教室」は、学童保育とは異なり、学校を核として地域の特色を生かし、地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに、地域コミュニティの活性化を目的とした放課後子ども教室である。

現在、放課後子ども教室、学童保育のいずれも、学習や活動をサポートする専門資格を持つスタッフの確保が課題となっている。また、町立の学童保育では、児童一人当たりの施設面積が要件規定の限度となっていることから、受け入れ児童を増やすことができず、対象学年を3年生までとし、低学年を優先的に受け入れている。放課後子ども教室についても同様の運用となっている。

現在、町内には4年生以上の児童を受け入れしている民間の学童保育施設が3か所あり、町がその運営に対し補助をしているので、必要な方は、その施設を利用させていただくようお願いしている。

小規模特認校化の際は、地域や保護者が主体となり、学校等と連携して特色ある取り組みを進めることとなる。放課後にこれまでの「立山かがやき教室」とは異なる活動を計画していく場合は、使用できる教室に限りがあるので、町にご相談いただきたい。

## ③通学路整備の現時点での状況について

(建設課長)

別紙1のとおり、立山小学校の通学路である町道下田東中野新線の安全対策を進めるため、令和4年度に岩嶺保育所近くの県道立山水橋線との丁字路交差点から南側、立山小学校まで約500mの測量設計を実施した。

全体の工事概要としては、岩嶺保育所近くの丁字路交差点の隅切りと小学校グラウン

ド東側（相撲場 東側）のS字カーブ区間の拡幅、道路西側水路の蓋掛け、危険箇所の転落防止柵の設置及び路側帯のカラー舗装などを計画している。

今年度は、岩嶺保育所近くの丁字路交差点の隅切り拡幅を含めた約20mの改良工事を実施する予定である。来年度以降も、引き続き立山小学校までの道路整備を進める予定であり、早期に完成できるよう努める。

地区の皆様には、工事期間中の通行規制など、ご迷惑をおかけするが、ご理解とご協力をお願いしたい。

## ●防災、災害時避難関連

### ①立山分団詰所の建築概要と今後の予定について

- ・建屋概要、駐車場など。着工時期、供用開始はいつごろか

（消防長）

今年10月の立山地区要望において、詰所移転の際には岩嶺公民館に隣接した岩嶺寺児童公園の一部を第一候補地として考えていること、移転時期、レイアウト、予算措置については、今後、引き続き検討していくとお答えしている。

現時点では、近年建替えを行った他の分団詰所と同様の建物構造や規模、駐車場の整備を考えている。移転時期については、現時点で具体的にお答えできる状況ではなく、用地に係る諸条件を整えた上で、予算措置を含めて引き続き検討していく。

### ②立山分団の新築移転について

- ・防災拠点、避難場所として整備されるのか。岩嶺公民館との連携は

（消防長）

災害発生時に住民の避難施設としても活用できるような間取り、公民館と分団詰所間の通行を考慮した建物レイアウト、公民館と併用可能となる駐車場の整備など、地域の防災拠点として使いやすい施設となるよう配慮していきたい。

### ③立山地区の災害時避難先、避難方法等の確認について

- ・地区内13集落における災害種類別の避難先・避難方法について
- ・避難先の収容人数は

（総務課長）

別紙2に「防災、災害時避難関連について」として、立山地区の避難場所、収容人数等をまとめている。これは、町避難所運営マニュアルから抜粋したものであり、また、2. 各種ハザードマップとして、これらを掲載したウェブページのQRコードをお示ししている。これらハザードマップもご確認いただき、改めて、集落やご家族の中で、事前に避難先や避難方法を話しあっていただくことをお願いしたい。なお、千寿ヶ原の国立登山研究所は令和8年度まで耐震工事中であり、グリーンビュー立山は、客室利用

状況により流動的なため、収容可能人数は記載していない。

#### ④防災意識の向上について

- ・ 災害時防災備品の整備
- ・ 各集落における自主防災会の再構築に向けて指導いただきたい

(総務課長)

別紙2の裏面は、3. 自主防災組織への補助金を記載している。これは、県の支援制度を活用し、自主防災組織に対する町の補助金をまとめたものである。

大枠として、(1) 資機材整備事業において、各種資機材の購入や防災倉庫の整備等に助成している。次に、(2) 研修・訓練等促進事業では、研修会、講演会、防災訓練などのソフト事業に対し、助成している。最後に、(3) 地区防災計画策定促進事業では、計画策定に要する経費全般に対し、助成している。県の策定手引きによると、防災マップ、活動体制、避難路・避難所、初動対応、避難所の開設・運営、備蓄、関係団体との連携などが例示されている。なお、申請限度額は、記載のとおりであり、これら事業の活用をご検討される場合は、総務課行政係にご連絡いただきたい。

次に、自主防災会の再構築について、県では、地域の中で防災に関する専門的な知識を有する「防災士」の養成を進めており、本年度は23名の方が受講予定である。ご相談いただければ、防災士の派遣調整を行うので、総務課行政係にご連絡いただきたい。なお、この養成研修に対して、町は受講料の一部を助成しており、町ホームページや広報たてやま、町の公式ライン「たてやまスマート情報システム」において、受講の公募状況をお知らせしている。

#### ■意見交換

- 私は、立山かがやき教室の指導員をしており、現在、小学1～3年生の児童28名を受け入れているが、小学4年生以降の児童は受入対象から外れてしまう。また、立山小学校が小規模特認校となった場合、区域外からも児童が通学できるため、親が仕事等で児童を迎えに行くことができないことも考えられる。もう少し受け皿を広げて、家庭事情等のある児童を受け入れられないか。

(教育課長)

小規模特認校化を進めるにあたり、放課後に立山かがやき教室とは異なる活動を計画している場合はご相談いただきたいと、先ほど回答させていただいた。使用できる教室が限られているので、そういったことも含めてご相談いただきたい。

また、小規模特認校で区域外から通う児童は、原則、保護者の責任で通っていただくことになる。立山かがやき教室とは別の取組みを進めていく中で、区域外から通う児童の受け皿についても同様に考えることになる。

(町長)

受入対象を小学3年生までとしている一番の理由は、スペースの問題と指導員の確保である。カギっ子や核家族世帯が増えている中で、スペースがあって指導員が確保できる場合は、段階的に対象学年の引き上げを検討していきたいと、教育長が9月議会で答弁している。

- 小学4年生以降全ての児童を受け入れるのではなく、保護者に利用したいかどうかのアンケートを実施した上で、受入対象の拡充を始めたいと思っているが、そのようなことを行ってもよいか。

(教育長)

保護者の意向を聞くことは、大変ありがたいと思っている。

立山かがやき教室は、実施時間が決まっており、延長すると1年間の総時間数が大きくなり、基準を超えると国の補助金の対象外となる可能性がある。

ただし、9月議会で答弁したとおり、対象学年を緩和して増やしていきたい思いもあるので、国や県の要件もあるが、少しでも皆様に喜んでいただけるような取組みをしたいと考えている。

- 子どもが、自宅から吉峰の坂道を上り下りして、沢中山駅から電車に乗って中学校に通っている。

11月に、子どもが自転車で坂道を上がって帰る際にサルに襲われた。ケガはなかったが、坂道が怖くなってしまい一人では帰宅できない状態となり、以降は自分が子どもを坂の下まで迎えに行き一緒に坂道を上って帰宅している。町としてサル対策はあるか。また、これから雪が降ったら歩いて帰宅することになり、夜間の坂道は大人が歩いても怖いので、街灯を設置していただけないか。

(町長)

街灯(防犯灯)については、町補助金があるので、ここに防犯灯があったらという場所がある場合は、町に聞かせていただければ後日現地確認する。サル対策については、(鉄砲や電動ガン等で離れ猿を)打つしかないと思っている。

- 冬場の坂道は、除雪が一本しか入らなくて、融雪水が噴水のように出ることもあり、人が歩ける状態ではない。

集落の方にも相談しているが、案として吉峰野開への坂道が3本ある中で、真ん中の細い坂道は冬場、車が通らないよう閉鎖されており、歩行者用として除雪していただくことは可能か。

(町長)

融雪水には川の水を使用していて、温度が低いいため、道路の一部に雪が残ることがある。除雪車による除雪作業を依頼するほか、適度に融雪水が出るよう業者への点検

も町から依頼する。また、真ん中の細い坂道については、竹やぶがあって真っ暗であり、業者も現在の除雪作業で目一杯のため、除雪箇所を増やすことはなかなか至難の業である。

- 宮路交差点を左折後、カーナビを設置していない車などは吉峰野開への坂道を上げらずに、栃津川の行き止まりの方向に行ってしまうことがある。分岐点には、のぼり旗が立っているが、効果はあまりないと思われる。せっかく素晴らしいグリーンパーク吉峰という施設があるので、案内標識の整備をお願いできないか。

(町長)

了解した。案内標識を整備するよう、関係課（商工観光課）に伝える。

- 立山地区には、立山線や上滝方面からの路線があり、この沿線を利用する方は当然いるので、意見を取り上げていただきたく、地鉄（公共交通）に関する委員の公募に、当地区から応募をしたが選ばれなかった。実際に誰が委員になっているか分からないので教えていただきたい。

また、公共交通の活性化について、現状と今後の見込み、地鉄の問題などをお聞かせいただきたい。

(企画政策課長)

来年度末に向けて「立山町地域公共交通計画」を策定するための町公共交通活性化協議会の公募委員を募集した。委員は総勢約 20 名で、このうち公募委員は 2 名、残りは鉄道やバス、タクシーの公共交通事業者や町区長会長などで構成されている。公募委員には、たくさんの方から応募いただき、選考の結果、立山地区で手を挙げていただいた方について、選考とはならなかった。

計画では、地鉄だけではなく、町営バスやその他の公共交通も対象としている。町では、現在、地鉄立山線や町営バスを利用している方にアンケートをとっている。当然、立山線の話もしていくので、アンケート結果をもとに計画策定の参考にしたい。また、進捗状況を町ホームページや広報たてやまなどで情報発信していきたいと思うので、確認いただきたい。

- 少子高齢化や核家族化が進む中で、交通機関は、生活弱者に対して、定期的にその地区にサービスを続けることが大事である。その中で、将来的に民間企業が電車やバス等を運営できなくなった場合は、行政が行うしかないと思っている。また、駅前駐車場が完備されていないため、電車があまり利用されていないと思っているが、どのようにお考えか。

(町長)

運転手不足や公共交通利用者が減っていく中で、どうやって生活の足を守るかを、

専門家の皆様等に集ってもらい、町で検討している。例えば、一般の方が二種免許を持たなくても顧客を送迎できる「ライドシェア」など、さまざまな可能性を計画策定の中で検討することになる。鉄道については、やめてしまうと終わりだと思っており、道路と同じインフラというのが自分の信念であるので、多少お金がかかっても町で行う覚悟を持っている。

駅駐車場は、それぞれ需要に応じて整備していくつもりである。岩嶺寺駅の駐輪場については、傷んでいる箇所は撤去して、もう少し使用できそうな箇所は塗装し直す予定である。

#### 4 町議会議員挨拶

後藤議員、平井議員 挨拶

#### 5 閉会 終了